

令和4年度 自己評価・学校関係者評価報告書

令和 5年7月12日

学校法人和田実学園 目白幼稚園

1 本園の保育目標

【保育理念】

和田実の保育理念である「遊び」を通し、子どもの個性や能力を引き出す「誘導」による保育を行う。

【保育目標】

「自主性」「社会性」「創造性」を養い、「健康な体」と「情緒豊かな子ども」を育てる。

2 年間の重点目標・計画

- ① 幼稚園に求められる社会的役割を理解し、それに応えられるよう教員間の学びと共通の理解を図る。
- ② コロナ禍の影響を受け、制限されていた保育活動を徐々に取り戻し、経験の幅を広げ保育の質向上に努める。
- ③ 安定した園運営ができるよう広報活動に努める。

3 評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目		結果	取り組み状況
1	保育理念や方針の理解	A	発達段階に応じた保育を大切にし無理ない成長へと導いている。
2	子どもの実態に即した計画の作成	B	子どもの姿の把握に努め、PDCAサイクルを重視し作成している。
3	保育実践や保育者間合意に基づく保育	A	互いの保育実践を報告し合い次の保育の方法を検討し実践に努めている。
4	子ども理解について職員間での共通理解	A	他の職員の考えや思いも聞きながら、一人ひとりの子どもの姿を丁寧に捉えている。
5	子どもの活動の豊かな展開に資する環境構成	A	子どもの成長・発達にあわせ、子どもからの働きかけに応じて柔軟に対応している。
6	保育内容5領域の理解とバランスの取れた保育実践	B	「表現」が乏しい子どもでも、活動をより意識して取り入れる日常での発見や気づきを大切にしている。
7	「生きる力」の基礎を培う保育実践	A	自分で考える力や何かをやり遂げられるように声をかけたり、援助している。
8	子どもの思いを受け入れ人権に配慮した関わり	A	「子どもの声を聴く」ことを大切にし、子どもが話しやすい雰囲気、環境づくりに心がけている。
9	丁寧な関わりや配慮が必要な子供にあった支援	A	保護者の思いに寄り添い、共にその子どもにとっての最善を考えていくよう努力している。
10	地域との関わりや社会資源を活用した幅広い保育実践	C	老人ホームへの訪問、周辺施設でのイベント参加など地域により開かれた保育を進めるよう考慮している。
11	保護者や子育て世帯に対する育児支援・相談への取り組み	B	学期ごとに保護者が気軽に集まれる場、日々の子育てについて自由に話せる場作りに努力している。
12	施設開放や地域貢献に取り組み	C	始めたばかりではあるが、週1で施設開放を行い継続的に取り組んでいる。
13	社会のニーズに合わせた取り組みや保育実践	B	社会のニーズに合わせた取り組みについては、職員間でも話し合いを進めている。
14	保育の質を向上するための取り組み	A	毎日の保育の振り返りを職員間で行い、意見を求め共有している。
15	公的機関による研修・講習会への参加と園運営への反映	C	殆ど参加していないので、参加していくようにする。

評価項目		結果	取り組み状況
16	園外研修に積極的に参加し、保育の質の向上・改善への取り組み	B	ZOOMを利用し、勤務時間外でも参加できる研修を模索している。
17	身近な問題について園内研修として継続的に研究	B	問題はそのままにせず、すぐに職員間で話し合いを行い、解決策を考えるようにしている。
18	自分の趣味や関心を深めるための自己研鑽への取り組み	A	勤務時間外はできるだけ保育以外のことに頭を切り替え、リフレッシュするようにしている。
19	現在の保育の在り方について気になること	B	満3歳児を受け入れるに当たり、その保育の在り方について考えていく必要がある。
20	今後の保育実践において取り組みたいこと	A	子どもたちにも普段の活動を通して地域との繋がりを感じられるような保育計画を立てていく。

4 総合的な評価結果

結 果	理 由
B	各評価項目について真摯に取り組んでおり、特に教員間の話し合いの機会を多く持ち情報の共有に努めているが、コロナ禍対応の影響もあり徹底を欠いた面も否めない。保護者等対応や研修への参加による質の向上など今後の課題も見えてきた。

(3. 4の評価記号…A:十分達成されている B:概ね達成されている C:達成されておらず成果不十分)

5 今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
保護者や子育て世帯との連携	・延長保育・一時保育の受け入れなど保護者支援の在り方を検討する。 ・これまで実施していた行事の再開と、保護者の行事参加の在り方を検討する。 ・「おひさまクラブ」の開催日を拡大し、未就園児保護者に本園の保育に触れる機会を多く持つ。
地域との関わりの強化	・園内のみの保育活動から園外に場を広げ、多様な経験ができるよう検討する。 ・地域に開かれた幼稚園として施設開放日を設けホームページ等で周知する。 ・年間を通して見学者を受け入れるほか、実習生を通し本園の保育理念の周知を図る。
研修・講習会への参加と反映	・政府刊行物や送付資料等を共有し、園内研修を定期的実施する。 ・園外研修を通し、社会の動向に関心を持つ。 ・子どもの活動を生み出す保育環境の在り方について検討する。 ・学会団体加入を検討し、和田実の教育理念を広く社会に発信していく。

6 学校関係者評価委員会の評価

和田実の教育理念を継承し、子どもの主体性を尊重した遊びによる保育実践をしていることは評価できる。特に保護者からの「登園するときの子ども笑顔がすべてを物語っている。」や地域代表の「毎日子どもたちの元気な声が聞こえてうれしい。」などの様々な所見は、その表れであると理解できる。

その上で、創立当時の保育理念や方法をそのまま受け継ぐのではなく、子どもの実態、時代が求める保育の基本理念等を理解し、全教職員が社会の変動に関心を持ち、各種研修に積極的に参加する等により新たな保育の在り方を模索する必要もある。